



FOR IMMEDIATE RELEASE

MEDIA CONTACTS

Benjamin Kelner

312. 201. 4535

bkelner@chicagosistercities.com

m

Kimiyo Naka

312. 498. 6241

kimiyo.naka@kimiyoopr.com

シカゴ東日本大震災追悼イベント「Kizuna 5（絆）」

シカゴ姉妹都市インターナショナル（CSCI）大阪委員会は、2011 年から「絆」をテーマに、在シカゴ日本国総領事館、シカゴ日米協会、シカゴ日本商工会議所、ジェトロ・シカゴ事務所を共催に、写真展など震災関連プログラムを開催してきました。2016 年は被災・復興 5 年目という節目でもあり、「Voices of the Youth - 東北の若者とその未来」をサブテーマに写真展、青少年交流、経済セミナー、パネルディスカッション、短編映画、青少年ビデオ・メッセージなど、より充実したプログラムを 3 月 6 日より開催します。

「絆 5」の背景と概要：

シカゴ姉妹都市インターナショナルは、シカゴ市の第 3 セクター非営利団体（501(c)(3)）で、草の根活動をベースに文化及び経済交流により、シカゴと世界各国との絆を強めることを目的としています。大阪委員会は、シカゴと大阪、そして米国と日本の市民交流を通じ、より良い関係作りを目指し 1973 年に設立され、様々な活動により 2 国間の絆を強化することをミッションとしています。

イベントの意義：

2011 年 3 月に東北地方を大地震と津波が襲って以来、大阪委員会はシカゴ市民として、また、シカゴ在住の日本人として被災者への支援の必要性を強く感じ、過去 4 回にわた

り、その復興の様子を伝える写真展や経済セミナーなどを開催してきました。大震災の記憶を消さず米国市民に被災後の姿を伝えよう、と微力ながら継続させています。復興への道のりは長いものですが、海の向こうからエールを送ります。

過去4回の写真展では、日本経済新聞社所蔵の写真、シカゴ在住の写真家、仙台在住で被災状況を追いつける宍戸清孝氏の写真などを展示してきました。去年は、継続する復興の様子を記録するため、シカゴ在住の写真家であり写真展キュレーターでもあるジェマソン・チェン教授が東北に入り、撮影しました。チェン教授はレンズを通して得た東北の人々の姿を絆4写真展で発表し、被災地が復興へ向かい日々前進している様子を公開展示しました。2011年以来、東北の写真展を毎年開催している米国都市はシカゴだけといわれています。

今回の5周年追悼イベントは、青少年とその未来に焦点を当て、被災地の若者たちが災害から学んだこと、共有したこと、そして彼らの人生に与えた影響と世界観を探ります。追悼式には東北の子供たちが収録した合唱と英語でのビデオ・メッセージを放映し、会場ではシカゴの子供たちが東北の人々に向けて歌います。シカゴと東北の生徒は今回の追悼式の準備を通じてビデオや手紙の交換を始め、新たな交流が生まれました。また、ビデオ・メッセージは、東北の若者たちが世界に羽ばたく一助になれば、と英語での発信を推奨しました。福島市、いわき市、亘理町、気仙沼市、石巻市、釜石市、大槌町など各地から寄せられた約250のビデオ・メッセージは、シカゴ姉妹都市インターナショナルのウェブサイトやYouTubeを通じて世界に発信されます。子供たちが海外に目を向け、グローバルなパートナーシップについて学ぶチャンスになれば、と思います。

●絆Kizuna 5 追悼式

2016年3月6日（日）

2:00PM - 2:45PM: レセプション（軽食をご用意しています）

2:45PM - 4:00PM: 追悼式

会場: Chicago Cultural Center (3rd Floor), Preston Bradley Hall

入場無料。事前参加登録不要。

追悼式ではシカゴの仏教会のパティ・ナカイ僧侶（Rev. Patti Nakai）が被害者の冥福を祈り読経し、岩藤在シカゴ日本国総領事、イリノイ州政府、シカゴ市代表者等がスピーチを行います。「若者と未来」をテーマに、シカゴと東北の子供たちの合唱に加え、英語ビデオ・メッセージ、東北ドキュメンタリー短編映画を放映します。

東北ビデオ・メッセージ・プロジェクト

シカゴ生まれの日系アメリカ人で、福島市の桜の聖母学院で英語を教えるシカゴ出身の藤平明彦（Akihiko Tohei）氏が発案し実現しました。教師として教えていた福島で震災を経験し、多くの外国人が日本を脱出した際に「福島の人たちを後に残して去れない」

と、学校閉鎖中もボランティアとして福島原発事故の被害者のために飲み水を運ぶなど、ボランティア活動が続けてきました。同氏の発案を受け、Kizuna 5 チームのビデオ班 Wesley Julian と白石早美 (Hayami Shiraishi) が15年8月に東北各地をまわりビデオ・メッセージ発信の募集と協力を依頼しました。その結果、桜の聖母学院をはじめ、被害が最も大きかった3県、福島、宮城、岩手の小中高大学校の生徒から合計約250のビデオ・メッセージが寄せられました。ビデオ・メッセージは子供たち（小学生高学年から大学生まで）が震災から経験したこと、将来への夢を英語でビデオに収めたものです。ビデオ編集にはシカゴ美術館スタッフなど多くの有志がボランティアで参加し、数百時間を費やして仕上げました。

●東北の子供たちをテーマにした写真展

3月7日～11日まで。会場：James R. Thompson Center Lobby, Chicago

3月14日～25日まで。会場：Richard J. Daley Center Lobby, Chicago

日本経済新聞社から提供された過去4年間の震災写真アーカイブから抜粋したプロスペクティブ（回顧）写真に加え、仙台在住写真家の宍戸清孝氏による「Children of Tohoku」を展示。宍戸氏は東北の被災状況を追う写真集「Home 美しき故郷よ」を出版し、その後も震災関連の写真を撮り続けています。同氏は過去2年間、絆プロジェクトに参加し、素晴らしい作品を写真展に提供してきました。絆5では、ビデオ・メッセージに登場する子供たちのポートレートを撮影しました。写真展ではパネルにQRコードを付け、観客がスマートフォンで被写体の子供のビデオ・メッセージを鑑賞できます。写真展監修・キュレーターはロヨラ大学のジャマソン・チェン教授。

●東北経済セミナー

主催：シカゴ日米協会、企画・共催：ジェトロ・シカゴ事務所、共催：在シカゴ日本国総領事館

3月9日（水）5:30-8:15PM

会場：Grant Thornton, 171 N. Clark St. #200, Chicago

入場無料。参加ご希望の方は次のサイトからお申込みください。 www.jaschicago.org

東北経済セミナーはKizuna 5 関連プロジェクト。シカゴ日米協会主催で、ジェトロ・シカゴ事務所が企画・共催、在シカゴ日本国総領事館が共催。東北地域の企業の復興活動にハイライトを当て、東北の現状と日本政府の東北復興経済対策について情報を提供します。ゲストスピーカーには、東日本大震災で被災した後、復興支援に大いに貢献しているアイリスオーヤマ(株)の米国法人 IRIS (アイリス) USA 社から大山晃弘 (オオヤマ・アキヒロ) チェアマンを迎えます。また、曽根一朗ジェトロ・シカゴ所長、宮城県庁関係者が講演。セミナー終了後はネットワーキング（情報交換会）のためのレセプションを開催します。同セミナーは、シカゴ日本商工会議所創立50周年記念事業の一環として実施します。

●自然災害の緊急対応と国際パートナーシップについてのパネルディスカッション
シカゴ日本国総領事館主催

3月14日（月）5:20PM 受付開始。6:00PM プログラム開始

会場：Japan Information Center, 737 N. Chicago Ave, Suite 1000, Chicago

入場無料。参加ご希望の方は次のサイトからお申込みください。

kizuna5panel.app.rsvpify.com

『自然災害への緊急対応と国際パートナーシップ』をテーマに、近年地震や津波の被害を受けたネパールやフィリピンの代表、緊急支援の専門家等をパネリストに迎え、東日本大震災をはじめ、世界中で発生する自然災害や災害対策、国際的な協力体制、国際支援の在り方等について議論します。モデレーターは米国赤十字シカゴ・イリノイ北部地域災害担当のハーレー・ジョーンズ氏。

●短編ドキュメンタリー映画『113 Project』上映会

3月7日より次のサイトで公開されます。 www.113Project.org

「113 Project」はウェスリー・ジュリアン氏制作の東北ドキュメンタリー映画。シカゴ在住映像プロデューサーのジュリアン氏は、JETプログラム参加者として2008年から2010年まで宮城県の小中高校に勤務した後、2011年の春に同県の中学校の卒業式に出席していた際に東日本大震災を体験し、同じ英語教師のアメリカ人の友人を失いました。以来、東北のドキュメンタリーを撮り続けており、Kizuna 5プロジェクトの一環として、東北の祭を背景に、災害から立ち上がる若者の姿を追い映画化しました。2015年8月下旬にも東北を訪問し、仙台在住写真家の宍戸清孝氏と共に東北の子供たちやその世界観を写真と映像で捉えました。

Kizuna 5（絆5）プロジェクト支援団体：

絆Kizuna 5名誉委員長：ラウナー・イリノイ州知事、エマニュエル・シカゴ市長。プロジェクトはシカゴ姉妹都市インターナショナル（CSCI）大阪委員会が主催、在シカゴ日本国領事館、シカゴ日米協会、シカゴ日本商工会議所、ジェトロ・シカゴ事務所の共催、日米企業、学校、市民団体及び個人からの支援を得て実施。

絆Kizuna 5共催団体、協賛企業・個人： All Nippon Airways; Barnes and Thornburg LLP; Garrett Popcorn; Grant Thornton LLP; Gudonin Buddhist Temple; Hekiun Oda; Hideo Suzuki; JCCC Foundation; Kikkoman Foods, Inc.; Kimiyo Naka; Kioto Aoki; Kiyotaka Shishido Photo Studio; Kubota Engine America; Loyola University Chicago's School of Communication; M Square Inc.; Masuda, Funai, Eifert & Mitchell, Ltd.; Mayumi Lake; Matsutani America; Nagle Photography; NAMCO USA Inc.; OMRON Management Center of America; Pacific Liaison Services, Inc.; Richard Robinson; Shiho Akaike Graphic Design; Sumitomo Corporation of Americas; Tatsu Aoki; Tokyo Commodity Exchange, Inc.; Tsukasa Taiko; Uniqlo; Yaskawa America, Inc.

Photo by Kiyotaka Shishido

絆5の詳細はこちらまでChicagoSisterCities.com/Kizuna5